

フットサルを続けるモチベーションについて

河内 裕介 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 狩野 孝之

キーワード：フットサル,モチベーション,発展

1. 緒言

本論文では具体的なモチベーションを探ると共に日本のフットサル文化の発展に結びつけていくことを目標としている。

2. 調査対象, 方法

調査対象は10代から50代まで。

調査方法はアンケート調査を実施する。

3. 調査結果と考察

1)活動日翌日は普段と変化がありますか？

はいと答えた人が34.2%でいいえと答えた人が65.8%となった。またはいと答えた人のみに具体的に記述解答を行い以下の解答を得られた。

表1. 活動日翌日の変化 (記述)

性別	解答内容
男・女	ストレスが解消されている
男・女	筋肉痛
男	仕事に意欲が湧く
女	すり傷等が痛い

2)活動目的での上位3つの平均得点

運動不足解消 3.46点, 試合や大会に参加して結果を出したいから 4.05点, フットサルが好きだから 4.5点となった。しかし私は1位仕事(学業)の息抜き, 2位運動不足解消, 3位友達作りと仮説を立てた。この結果から推測できることは, フットサルを始めた時は息抜きや付き合いなどがきっかけとなり, 数ヶ月, 数年取り

組んでいるうちにフットサルそのものが好きになり今回の結果に繋がったと私は推測した。

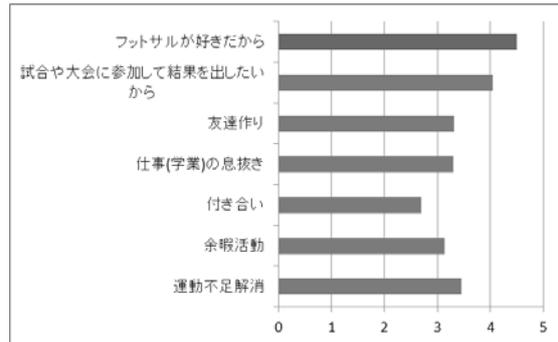


図1. 活動目的平均点一覧

4. 結論

アンケート結果から得られた事は, フットサルを取り組むにあたって年齢や性別によって制限は特に無く, 老若男女に親しみやすいスポーツだという事がまず明らかとなった。また,モチベーションは自分自身のフットサルに対する想いであることがわかった。また, フットサル文化の発展を確信することができた。

引用・参考文献

- 古本智大, 入口豊, 井上功一, 中野尊志, 大西史晃 (2010年) フットサル普及の現状と展望 (I) 大阪教育大学紀要 58巻2号 p35~52
- 古本智大, 入口豊, 井上功一, 中野尊志, 大西史晃 (2010年) フットサル普及の現状と展望 (II) 大阪教育大学紀要 59巻1号 p27~42
- 古本智大, 入口豊, 井上功一, 中野尊志, 大西史晃 (2011年) フットサル普及の現状と展望 (III) 大阪教育大学紀要 59巻2号 p61~72